

スリナム月間情勢報告
(2024年12月)

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

12月のスリナムの内政、経済、外交月間報告は以下の通り。

1 内政

- (1日政府発表)一般開放開発党(ABOP)のランドブルーグド氏が新たに内務大臣に就任。
- (25日政府発表、28日報道)ボータッセ元大統領が肝臓疾患のため死去。同元大統領は1982年の拷問・殺害事件に関与した罪で懲役判決を受けていたことから、国葬や政府からの弔電発出等を行われていない。

2 経済

- (10日報道)米州開発銀行(IDB)は、スリナムの民間航空部門における安全性及び航空インフラ強化に関する2,500万米ドルの融資プログラムを承認。
- (19日、21日報道)IMF理事会は、スリナムに対する拡大信用供与措置(EFF)による支援に関する第8回審査の結果を承認。これにより、同国は追加で6,100万米ドルへのアクセスが可能となった。2,000万米ドルは中央銀行の準備通貨、4,100万米ドルは財務・計画省の予算に充てられる予定。

3 外交

- (1日、13日報道)ガイアナ政府が両国間の係争地であるティグリ地域(別名ニュー・リバー・トライアングル地域)にある軍事基地「キャンプ・ジャガー」の滑走路の舗装工事を年内に開始する旨を発表したことを受け、ラムディン外相はデプー駐スリナム・ガイアナ大使に抗議文を手交。
- (16日報道)ラムディン外相と岩屋外相は、東京で開催された日・カリコム外相会合の-marginで二国間会談を行い、二国間関係の強化に向けた意気込みを表明。
- (21日報道)スリナムは、国際労働機関(ILO)の4つの条約(画期的な社会保障条約(第102号)、労働監督(農業)条約(第129号)、最低賃金決定条約(第131号)及び母性保護条約(第183号))に批准。
- (27日報道)ボータッセ元大統領の死去を受け、ベネズエラ、キューバ及びコロンビア大使館は弔問に記帳し、哀悼の意を表明。